

二〇二一年度 外国学生入学試験 日本語 試験問題

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

きみたちはバベルの塔の話を知ることがあるだろうか。それは『旧約聖書』の「創世記」に記されている物語である。バベルというのは、古代史に出てくるバビロン、いまのイラクの地名である。古代社会の遊牧の民が、この地に定着し、着々と文化を①キズきはじめたとき、かれらは自分たちの力を示すため、天に達する高い塔を建設しよう、と考えた。砂漠の地で十分の石がなかったためであろう。かれらはれんがを焼く技術を②獲得し、さらにこれを③ツみあげていくため、しつこいより④丈夫なアスファルトを用いた。アスファルトというたいへん現代的であるが、石油の産出地であるから、地上ににじみ出ていたものを加工したのであろう。こうした技術を用いて塔の建設にとりくんたのである。これを見て神はこういった、と「聖書」は記している。 a

「彼らがしようとすることは、もはや何事もとどめ得ないであろう。さあ、われわれは下って行って、そこで彼らの言葉を乱し、たがいに言葉を通じないようにしよう。」

天に達する塔をつくるということは、自分たちが神と同じものになることである。神はこの人間の野望をうちこわさなければならぬ、と考えたわけである。そこでとった方法はれんが工と運搬工、運搬工とアスファルト工等の間の言葉を通じあわないようにすることであった。古代人の野望は、言語不通のために⑤挫折してしまった。 b

大学のことを象牙の塔ゾウガということは、きみたちも知っているだろう。だが現代の大学は、象牙の塔からバベルの塔へ変わったのではなからうか。現代の科学技術は、古代人はおろか、十九世紀の人も⑥想像できないほど、急速に発展した。ギリシャ神話によると、プロメテウスは火を盗んで、これを人類にあたえたというが、現代の科学者は、原子力の火を盗んで、原子爆弾をつくり、原子力発電を行なうようになった。そればかりではない。月ロケットをつくり、長いあいだ人間にとつてAロマンチックな存在であった、月世界に人間を送りこみ、月の砂漠を砂ぼこりを立てて歩く姿を、茶の間のテレビに映し出すこともした。土星めがけて打ち上げたロケットは、計算通りに飛んで、数カ月後には土星の情報を地球に送ってくる。現代の科学技術は、まさに古代人のみた夢を実現しようとしている。 c

きみたちはこの天に達する科学技術のすばらしさを見て、⑦興奮しているかもしれない。たしかに、科学の高い峰は連峰となつてわたしたちの前にそびえ立っている。山登りをする人たちが、山頂に立つて⑧感激するように、科学の高い峰をよじ登ることはたやすくはないが、Bや甲斐のあることである。数学の問題が解けたときに、⑨サケびたいような喜びが胸にわき上がるように、学問の世界を一つ一つ征服していくことは、この上ない喜びである。

d

だが、私たちの前に天にとどかんばかりにそびえている科学に、問題はないであろうか。

現代の技術はたいへんな勢いで発展したが、それによって自然は破壊されてきたのではないか。この技術の恩恵で生活は⑩ユタかになったが、環境は汚染されてしまったのではないか。原子物理学が原子力を操作可能なものとしたとき、人類はまずそれで人を殺す原子爆弾をつくったのではないか。火を使うことを人間に教えたプロメテウスは、神の⑪イカリをかって、カフカスの絶壁につるされ、毎日鷲に肝をつつかねなければならなかったが、人間の場合はどうであろうか。世界の物理学界の最長老といわれたマックス・ボルンは、こういう状況にC心をいためて、つぎのように語った。

「利巧で有能な生徒をもったのは満足なことであるが、かれらの cleverness がもう少し少なくて、wisdom がもう少し多かったら、どんなによかったかと思う。かれらがわたしから学んだのが研究の方法だけだったとしたら、それはわたしの責任だと思う。いまや、かれらの cleverness が、世界を絶望的な状況におちいらせている。」

ボルンが cleverness といっているのは、少し悪い表現を使えば、小利巧とでもいったらよいであろう。いろいろな科学技術を器用に理解し、発展させ、利用する能力はもっているが、人間にとって科学技術がどういう意味をもつか、というような根本的なことを考えようとしない、現代の科学者を批判していることは、きみたちにもよくわかるであろう。

数年前⑫なくなった、ロケットの父フォン・ブラウンは、ナチスのためにV2を開発し、イギリスを苦しめた。戦争が終わるとアメリカにつれていかれ、ロケット技術でおくれをとったアメリカのために、エクスプローラー一号をつくった。彼の頭にあったのは、いかにして大きなロケットをつくり、それを飛ばすか、ということだけであった。それがどう利用されるかはなにも考えず、ナチスのためにも、アメリカのためにもすぐれたロケット技術者として働いた。ここに現代技術の姿が浮きぼりになっている。殺人兵器をつくれといわれれば、どんな殺人兵器もつくり、宇宙ロケットをつくれという指示があたえられれば、全力をつくしてそれをつくりあげるのである。目標の善悪は X の問うところではない。だが、それでよいのだろうか、とボルンは問うている。

バベルの塔はなぜ廃墟となったか。「聖書」は言葉がおたがいに不通になったためだ、と記している。実は、Y 物理学者のいうことは経済学者にはわからないし、哲学者のいうことは技術者にはわからない。一般的にいつて科学者や技術者は、Z思想の問題を理解できなくなっている。まえに述べたように、現代の科学は操作可能性という特性のために、急激な発展をみたが、それによって科学技術は、操作できる道具となっていた。そして、なんのためにその道具を使うか、それを使う人間がまちがわずにそれを使えるのか、は問われていない。

実をいうと、科学技術が発展し、肥大していくのと反比例して、それを使う人間の方は、衰弱する一方ではないのか。思想のない人間は内容が空洞となった人間である。衰弱し空洞化した人間が、はたしてこの天に達しようとする現代の科学技術を、使いこなしていけるであろうか。バベルの塔の失敗をくり返さないためには、人類はこの空洞をうめなければなら

ない。

(隅谷三喜男『大学でなにを学ぶか』による)

問一 ①③⑨⑩⑪⑫の太字の片仮名にあたる漢字を書きなさい。

問二 傍線部②④⑤⑥⑦⑧の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

問三 傍線部A・B・Cそれぞれの意味するところを簡潔に説明しなさい。

問四 空欄 X に入るもっとも適当な語を次のア～オから選び、その記号を書きなさい。

ア 宇宙      イ 技術      ウ 思想      エ 哲学      オ 言語

問五 空欄 Y に入るもっとも適当なものを次のア～エから選び、その記号を書きなさい。

ア 現代の科学も言語不通である。  
イ 現代の哲学も言語不通である。  
ウ 現代の技術は操作可能である。  
エ 現代の思想は操作可能である。

問六 二重傍線部Z「思想の問題」の具体的内容を記したもっとも適当な箇所を、これよりも前の文章から抜き出し、その最初と最後の五字を書きなさい。

問七 次の一文は、問題文中の空欄 a 〓 のうちの二箇所に入るべきものである。もっとも適当な箇所を選び、その記号を書きなさい。

考古学者の探検の結果によると、その遺跡がイラクの砂漠の中に見られるというところである。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

かつては、「家族を養う」ことが父親の最大の責任であり、仕事に専念し家をあける時間が長いのは、その責任を果たしている①あかしであった。「養う」「食わせる」ことができれば、家をあけるほうも、家にいるほうも、共に満足することができた。家族にとって生計の②イジという経済的課題が大きかったが、そのために働くという意味も明確であり、家族のあいだの結びつきは強かった。父親の帰宅時間が遅くても、よく働くことに対する家族からの尊敬と感謝が得られた。③「父親の権威」は「父親の不在」のもとでも存在していた。

しかし、所得と消費生活の面でのゆたかさのAとともに、「養う」「食わせる」ことは、比較的、容易になる。家族の課題と男の責任は、「養う」「食わせる」ことから消費や余暇の活動④ゼンパンに広がった。それらの多くは、家にいて、しかも家族と共に行動することがBになる。男だけではなく、女も子供も家庭から外へ出始める。望ましい家庭像は、父親が家族と多くの時間を共にすることを要求する。会社に長くいることは、家庭生活の理想と⑤ショウトツすることになった。「家族のために」よく働くという働き方は、逆に家族のためにならないものとなった。

それとともに、会社は生活全体の中で位置を変え始めることになった。⑥かつて会社に勤めることは、「月給取り」、すなわち定期的で確実な収入を確保できる特典を意味した。会社勤めは、定年までの生活が保障されることを意味した。C 実際には会社がうまくいかなかったり、会社でうまくいかなかったりして、そのとおりにならないことはあっただろう。しかし、会社員になれば、一般的には安定を期待するのは無理な願望ではなかった。

会社の利益が社員個人の利益とつながっている場合には、「会社のために」ということに大きな抵抗はなかった。会社のためになること、すなわち会社が拡大し利益をあげることが、それらが⑦還元されているかぎり、そのまま社員個人の利益、D 個人のためになり、E 家族のためになることであった。「会社に対する忠誠心」は、会社への⑧コウケンが個人に還元されてくるという一種の社会的交換システムに対する⑨シンライの現われということができた。⑩長時間の労働はその上に成立するものであった。

しかし、消費生活・余暇生活・家庭生活の要求が変わるとともに、「会社のために」と個人のために「家族のために」の不一致が強く意識されるようになった。従来の会社生活に従う生き方は、会社の意志をF し、会社に操作される生き方であるかのように⑪映ることになった。従来の生き方には⑫「会社人間」のレッテルがはられ、個人や家庭の生活と相反する生き方であるかのようになった。

会社人間という会社員像は、会社像をも変えることになった。会社は、所得を与えてくれるところから時間を奪うところへと変わった。所得は奪われた時間の対価にほかならない。残業は追加的な給与の獲得機会ではなく、個人ないし家族のプライベートな時

間の侵食を意味するものになった。仕事の持帰りや休日出勤だけでなく、社員旅行その他の会社の⑬催しも私生活への会社の侵入と見られるようになった。

会社は仕事をおして個々人に個性と能力の発揮を⑭促すところではなく、逆に個性を奪うところであるとさえ見なされることになった。会社人間は会社の利益と価値観に進んで同化し、また同化させられる、会社のカラーに染め上げられて個性を失っていくとして、⑮嫌悪と憐憫の対象になりつつある。

会社は経済社会の必要とするものを市場を通して提供するところではなく、⑯専ら利潤を追求するところとらえられてくる。会社は個人と社会をつなぐところではなく、むしろ社会から個人を切断するところとなる。会社人間は、会社の利潤追求や企業間競争に全面的に奉仕することで人間としての⑰視野を狭められてしまうと考えられるようになった。実際、会社も、激しい競争の中でそう見られてもしかたがないような奉仕を社員に要求してきた。

こうして、会社員として勤勉に働くということは、会社のために懸命に働くということと重ね合わされ、会社人間に徹することや、個人生活・家庭生活を⑱ないがしろにすることを意味するようになる。勤勉な会社生活は、会社人間という会社員像によって負の価値を与えられることになった。

このような変化は、日本人の従来の働き方及び仕事意識において、「価値の転倒」が起きつつあることを示している。会社に入って家族のため、会社のために一生一所で懸命に働くという形の勤労生活が G されなくなるだけでなく、勤労精神そのものが G されなくなっている。「忙しさ」よりも「ゆとり」、「まじめ」よりも「遊び」、「がんばる」よりも「楽しむ」という言葉と、そちらのほうが良いのだという価値観が広がっている。

(杉村芳美『「良い仕事」の思想』による)

杉村芳美、『良い仕事』の思想(中公新書三三八)、中央公論新社一九九七年  
※Web公開あたり、著作権者の要請により出典追記しております。

問八 傍線部①⑥⑭⑱の語句の意味を説明しなさい。

問九 ②④⑤⑧⑨の太字の片仮名にあたる漢字を書きなさい。

問十 傍線部③⑩は、それぞれどのようなことを言っているのか、説明しなさい。

問十一 空欄 A・B・F・G に入る最も適当な語を、それぞれ次の

Aから選び、その記号を書きなさい。

A	実感	イ	実現	ウ	実行	エ	実施	オ	実践
B	仮定	イ	原因	ウ	準備	エ	前提	オ	目的
F	体験	イ	体現	ウ	代替	エ	代表	オ	代理
G	援助	イ	支持	ウ	承知	エ	推進	オ	黙認

問十二 空欄 C・D・E に入る最も適当な語を、それぞれ次のアから

ら選び、その記号を書きなさい。同じものを二度以上、使ってはいけません。

ア 一方で    イ つまり    ウ ひいては    エ もちろん  
オ やはり

問十三 傍線部⑦⑪⑬⑭⑮⑯の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

問十四 傍線部⑫ほどのようなことを言っているのか、具体的に説明しなさい。

三 聞き取りの問題です。そのための読み上げは、試験を開始してから、約三十分後に行います。問題文は二回、読み上げます。それを聞き取り、漢字・平仮名・片仮名、及び句読点などを適切に用いて、解答欄に書きなさい。

(以下、余白)